長洲町立長洲小学校　校長便り　No.2

みんなの居場所

頭の体操コーナー

裏に頭の体操クイズを載せています。小学校で学習することをベースに作っています。出来る出来ない関係なく、ご家族でチャレンジしてみてください。会話が広がります。

令和4年4月25日(月)

勉強～学習の土台としての読書～

まだまだコロナ禍の中でスタートを切った令和4年度ですが、それをポジティブにとらえて楽しむことも必要かと感じています。

さて皆さん、読書に親しんでいますか。私澤田は、比較的読書量が多い学生時代を過ごしたので、図書館にはよく通いました。今でも図書館や本屋さんに行くことが楽しみの一つです。そして、必要性が高まるとお金を出して買うようにしています。そうすると、大切にする度合いが違いますし、何度も読み返して、確実に自分のものになると思うからです。更に、手元に置いておくことで、その時々で感じるものにも違いが出るからです。ちなみに、数年前私は県庁への通勤中のバス、電車の中で一年間に70冊ほどの本を読みました。毎日40分ほどの時間ですが、集中すればこれだけの本が読めるのです。

何の教科でも読むことが基本ですから、国語の学習や読書は、大変重要です。算数の学習をする場合、まず何を問われているのか問題の意味（題意）を理解し、その方法を考え、答えを導き出します。最近の問題は、問題文そのものが長く、題意を理解するのが難しいものもあります。先日、6年生を対象に実施された「全国学力・学習状況調査」のB問題や、熊本県が行っている「ゆうチャレンジ」等の問題は、文章、図、グラフ、資料を問題の中に配置されており、そこから総合的に情報を得なければなりません。そうしなければ、問題を解こうとすることもできないのです。ということは、算数の問題を解くにも、語彙力と文章読解力、情報を元にした思考力、判断力が必要なのです。だからこそ読書は大切で、国語辞典を手にして、多くの本を読むことが大切だと感じています。ご家庭でも読書について、話題にして頂ければありがたいです。今後、コロナ禍収束までまだまだ時間がかかりそうですし、外出の自粛…、この際これまで読めなかった本を読んでみてはどうでしょうか？　私澤田、最近はゆっくりとした時間がないのですが、それでも毎日読書しています。それにしても積読（つんどく!-?）が多いこと!

自分自身を重ずるために、江戸時代会津藩の教え

数年前NHK大河ドラマ「八重の桜」で「ならぬことはならぬのです」という言葉が出てきてうれしくなりました。というのは、私が担任時代に子ども達にまず話していた「是々非々」に関することだからです。

一つ、年長者の言うことに背いてはなりませぬ
二つ、年長者にはお辞儀をしなければなりませぬ
三つ、虚言を言うことはなりませぬ
四つ、卑怯な振る舞いをしてはなりませぬ
五つ、弱いものをいじめてはなりませぬ
六つ、戸外で物を食べてはなりませぬ
七つ、戸外で婦人と言葉を交えてはなりませぬ

七つめを除いて、私には非常に納得できるものばかりですが、保護者の皆様は如何ですか。この教えはこのような文言で結ばれます。

ならぬことはならぬのです

あらゆることを論理で説明しようとする現代社会において「ダメなものはダメ」として教えるこの教えは、私には非常に新鮮なものに感じます。

さて、現代の子ども達を客観的に見ると、7項目全てに何かしらあてはまることがあるような気がします。1つ目、大人（教師も含む）の言うことに、まず「え～っ」という返事。2つ目、朝からお辞儀をして挨拶することができているでしょうか。3つ目、嘘を言っていないでしょうか、自分を美化するような嘘は言語道断です。4つ目、卑怯な行動をしていないかどうか、それを指摘され、素直に改善しているでしょうか。5つ目、弱いものいじめをしていないでしょうか、人を見下すような言動は無いでしょうか。6つ目、外で意味もなく飲食していないでしょうか、マナーを無視し、戸外で菓子を食べたり、そのクズを捨てたりしていないでしょうか。7つ目、学級の中の友達に、男女の隔てなく声をかけているでしょうか、一緒にいる仲間たちを大切にしているでしょうか。この教えは、今、最も必要なものなのかもしれません。何があっても「ダメなものはダメ」…。長期休業中ですが、思わぬトラブルに巻き込まれることが無いように、7つの教えについて、ご家庭でも団欒の話題にして頂きたいものです。

シリーズ「自分を語る」#②

いわゆる、物心つくまでの時代、私は、只ひたすら外ばかり遊んでいたように思います。熊本市内の今の北区清水町に住んでいたのですが、市内の北の端に住んでいたこともあり、周りはまだまだ自然に恵まれていました。そのせいか、今でも当時の懐かしい場所へふらっと行ったりしています。幼稚園入園までは、新地団地周辺の原っぱでのびのび生活していたようです。

幼稚園入園前の出来事で、今でもうっすらと覚えていることがあります。それは、工事現場で遊んでいてケガをしたことです。今では工事現場など入って遊ぼうものなら、こっぴどく叱られますが、その当時は大らかな時代だったようです。新地団地に「鈴が原」というバス停があります。そのすぐ近くに5階建てのアパートがあるのですが、そのアパートは私が幼稚園入園前にできたものなのです。で、例によって、色々な建築資材や重機なども搬入され、冒険心に火がつき、中に入って遊んでいたようです。当時の工事現場では「立ち入り禁止」の札も無かったっ？ような気がします。私は工事現場のクラッシャーランと呼ばれる砂利の山に登って遊ぶのが好きだったようで、山のてっぺんまで駆け上がったり、駆け下りたりしていたようでした。その山に駆け上がるときのこと、要領もよくなって少し勢いが付き過ぎたのでしょう、てっぺんから逆方向に向かってこけてしまいましたからさぁ大変。私は「気を付け」をした状態で砂利の山を仰向けになって滑り落ちました。そして立ち上がって頭を触ると、ぬるっとした生暖かい感覚が…。右後頭部に砂利による切り傷が出来ていて、血が出ていました。痛みはあまり感じていなかったようで、そのまま家に帰ると、母親がびっくりして病院に連れて行ったという出来事でした。今風に言えば「ワイルド」な生活をしていました。「ワイルド」よりもピッタリなのは「感無し」かもしれません。しかし、外遊びでの経験は、今でも子どもたちに話す他愛のないことの中にも生きています。

（つづく）

※　「みんなの居場所」に関するご意見ご感想をお寄せください。（「みんなの居場所」への掲載の　　可　・　不可　）